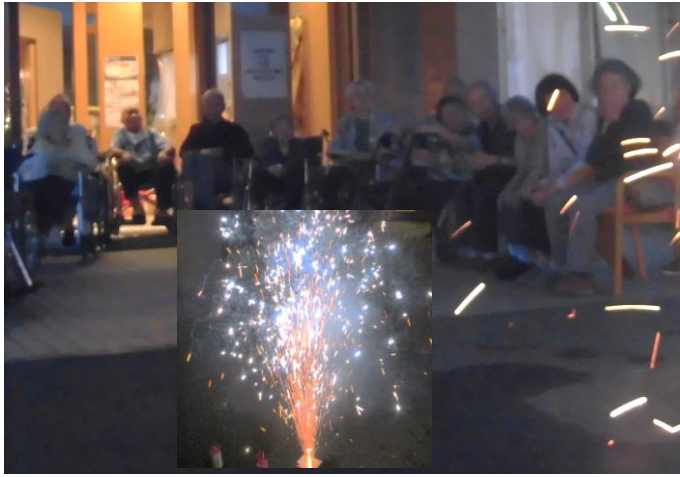


# ふくろう新聞

## たまやー夏の風物詩 花火大会



▲玄関先で花火を觀賞する入居者さん

お盆も明けた8月18日(水)コロナ禍で多くの行事が中止となつて入居者の皆様と共に楽しみをと夕方から花火大会を企画しました。  
この週は長雨が続いており、当日も朝から大雨警報が出ているという生憎の空模様。それでもふくろうの郷、正面玄

<発行>  
特別養護老人ホーム  
淡路ふくろうの郷  
広報委員会  
洲本市中川原中川原28番地1  
TEL:0799-25-8550  
FAX:0799-25-8551  
ホームページ  
<http://hyoufuku.main.jp/fukurou/>

東京2020パラリンピック競技大会パワースタッフ  
テイニング72kg級に出場された、洲本市中川原出身の  
宇城元選手が自己最高6位入賞。「自分が輝かない  
と、見る人の心にも響かない。最後の試技を成功させ、  
後悔なく終わられて良かった」とインタビューに答えら  
れていました。3年後のパリ大会でも勇姿が見られ  
ることを期待しています。

関大屋根の下で行うことに決めました。

始める直前には雷鳴と滝のような土砂降り、「本当にできるのか」と不安

でしたが、次第に小雨になり夕日が見え、東の空には虹がかかっています。

花火は「手持ち花火」と大きな火柱の「吹上花火」を用意しました。

入居者15〜20人を1グループとして3回に分けて実施することにしまし

た。

特に印象に残ったのは川ユニットの中脇文雄さん(66歳)。花火をみて「おおー」と大きな声を出して興奮されました。

中脇さんとは担当ユニットが異なるため、口数が少ない印象の中脇さんしかしらず、花火をみて「たまやー」と喜ばれる様子は新鮮で、知らない一面を見ることができました。

盲ろうの入居者さまにも参加いただき、花火を手持って煙や香り、火花の勢いを感じていただきました。

最後の入居者さんの手持ち花火が終

わるところにまた一段と雨が強くなってきましたが共に喜びを創れたのではと思えます。

コロナ禍で中止や縮小になった行事が多くありますが、今できることを入居者の皆様と喜び、まだまだ知らない一面を知ることができると感じています。

来夏は満天の星の下で花火ができるようにと祈念いたします。

(山ユニット 副主任 神代雅司)

## 気軽に買い物できる暮らしを

新型コロナウイルス感染予防のため気軽に外出できない日々が続いています。職員が買い物代行したり、施設内で楽しく過ごしてもらえるよう工夫を凝らしながら頑張ってきました。しかし、入居者の外出できないストレスや不満がどんどん募っていきます。そんな時、移動販売車「とくし丸」に来てもらえることを知り、自分の目で見て選び、買い物を楽しんでもらおうと7月より開始しました。毎週月曜日に音楽をかけながら販売車がやって来ます。パンやお菓子、巻きずしにお饅頭やプリン等、スーパーに劣らない品揃えで、「もう一つほしい」とお願いすると、「次回持ってきます」と素早く、こまやかな対応をしてくれます。食事制限されている方など入居者さんに合わせた支援が必要になりますが、毎週、「とくし丸」が来るのを今か今かと心待ちにされています。

(花木ユニット 生活援助員 川満幸子)



# ふくろう物語 藤村 政弘様



▲ふくろう玄関先で花壇を見る藤村さん

藤村政弘様の人生を紹介する準備をしていましたが、今年7月に体調を崩し入院。容態が急変されて8月17日に永眠されました。これから、藤村さんとの時間を共有しながら、より藤村さんの事を知りたいと思っていた矢先のことと残念でなりません。余りにも早い別れを惜しみ、ここに謹んで故人の人生を振り返ります。

昭和30年3月15日生まれ である乳牛や農業の手伝いの66歳。洲本市宇山で生活されてきました。

その後、南淡電機(現・三洋(長男))ということもあり、両親からは可愛がられて大切に育てられた、大人しい性格だったと次女様から話をうかがいました。

中学校を卒業後に大工見習いの仕事に就くが、落ちて怪我をしたことを心配した両親は、危ないからかわいそうと家業

その後、南淡電機(現・三洋 エナジー南淡(株))に勤められ、昭和56年頃に結婚されて子どもをもうけるも、三男さんが3歳の頃に奥様が急死されました。その後、残された子どもを育てるために、仕事を変わるなど苦労されたようです。

62歳の時に脳梗塞を発症、入院加療の後、在宅生活されて

いました。しかし、徐々に在宅生活が難しくなりふくろうの郷には平成31年2月12日にロングショートステイを経て、令和2年12月28日に入居されました。



▲旧鐘紡洲本工場原綿倉庫跡

ベッド上で過ごされる時間が長かったこともあり、テレビを見ながら過ごされてきました。巨人ファンでプロ野球や地元洲本のケーブルテレビ番組等をよく見ておられました。

入居されて少しずつ時間をかけて職員との信頼関係も深まり、「息子に会いたい」と心の内を話していただき

ました。病院受診をした際にも、息子さんに風貌が似ている人を見つけると息子さんだと思い、名前を呼んだりすることがありました。

コロナ感染拡大の時節柄お姉様や息子さん達が来訪してくれる機会は多くはありませんでしたが、顔を見ると照れくさそうにはいかんだ笑顔や息子さん達を目を細めて見るまなざしは父親の顔になり、これからも続いていくもの

と思っていたのに残念でなりません。ご冥福をお祈りいたします。(月川ユニット 生活援助員 實生貴之)

### 生きた時代・社会

昭和30年	日本国連加盟
昭和34年	身体障害者雇用促進法
昭和41年	淡路鉄道廃線
昭和56年	国際障害者年
昭和61年	鐘紡紡績洲本工場終焉
平成7年	阪神淡路大震災
平成10年	明石海峡大橋開通
平成12年	介護保険制度開始
平成24年	東日本大震災

## 暑い、夏だ！すいか割り！！



盛夏も催し物が始まります。入居者さんにお披露目したり、ポンポンと叩いたり、大きな音が出たり、ウオウオと伸ばして中央の注目が集まります。「やってみようぞ！」あちこちから手が挙がります。

一発勝負で木刀を大きく振りあげたり。慎重に木刀の先で狙いを定め、コンコンと小突いてから構えたり。何度も叩かれ「ハイ、終了。次の方。」と言われ残惜しそうな方。自然と笑顔になりました。最後にみんなで美味しくいただきました。(生活援助員 酒井英雄)

故人を偲んで  
〜迎え火〜

今年も8月13日(金) 偲ぶ会を開催しました。

昨年の偲ぶ会から亡くなった入居者の方々の生前の人柄や入居者・職員からエピソードを聞き、故人を偲びました。

そんな一面があったのかと初めて聞くエピソードに目を丸くして驚く入居者や職員も「そうだったよね」「知らなかったわ、亡くなった後に初めて知った」などと振り返ることができました。



▲松栄寺にお参り

いつもなら入居者の方々と永代供養されている松栄寺にお墓参りに行くのですが、長雨が続きおり願い叶わず、玄関先で迎え火を焚きみんなで故人を出迎えました。

入居者の吉見輝子さんはご主人が納骨されており、生前にご主人が大好きだったお酒を購入されお墓参りの準備をしていましたが、翌日もあいにくの雨だったため、雲の切れ間をぬって、職員が代わりにお酒をかけてくることを約束し、お墓参りに行きました。

故人について入居者と職員で語れる時間・場所があることの意義を再確認することができました。今後も偲ぶ会の場を大切に紡いでいきたいと思います。

(生活援助係 風 一郎)



旧優生保護法国家賠償

兵庫訴訟判決不当



旧優生保護法の下で望まない不妊手術を強いられたらうあ夫婦2組と脳性まひのある女性の5名が、国に計5500万円の損害賠償を求めた裁判の判決が、8月3日神戸地裁で言い渡されました。全国で起こされている同種の訴訟に対する判決と同様に、旧法は違憲であるとしながらも、損害賠償は棄却されました。

淡路ふくろうの郷にも、旧法下で強制的に中絶や不妊手術を受けさせられ、差別のため子どもを持つことを許されなかった方々が何名もおられ、入居者・職員ともに判決の結果に注目をしていただけに、非情な判決に悲しみと怒りの声が聞かれます。

長年にわたり声を上げられなかった方々の思いがこれ以上、傷つけられることのないように、今後の控訴審についての動向に注目していきたいと思います。

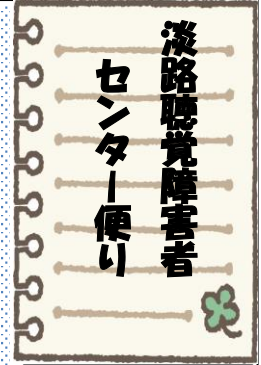
(淡路ふくろうの郷 副施設長 加野 明宏)



中野里江様のご家族様よりアルコールスプレーとウェットティッシュを寄贈いただきました。大切に使用させていただきます、ありがとうございます。

9月・10月 ふくろうの暮らし

- 9/15(水) ふくろう喫茶
- 9/17(金) 回想法
- 9/19(日) ふくろう敬老会
- 9/21(火) 入居者懇談会  
ふくろう大学絵手紙講座  
おのころパン販売
- 9/22(水) 手話講座
- 9/24(金) ふくろう大学料理講座  
ふくろう大学書道講座
- 10/1(金) おのころパン販売  
ふくろう工房手芸
- 10/4(月) ふくろう理髪店
- 10/5(火) ふくろう大学演劇講座
- 10/6(水) 誕生会



洲本市港 2-26  
洲本市健康福祉館 3

がんばるろう者紹介

仕事の幅を広げたい

福永 淳子さん

福永淳子さん（59歳）は現在イオンスタイル洲本でリサイクル関係の仕事をしています。入社して一年半余りですが同じ担当の2人と協力しながら重要な戦力となっています。

福永さんは奈良で生まれ育ちました。生まれつき耳が聞こえません。奈良県立聾学校中学部、京都府立聾学校高等学校を卒業後、パン製造会社に入社、その後縁あって23歳で淡路に嫁ぎ2人の子供に恵まれました。子育てがひと段落していた43歳の時、就労継続支援B型事業所「おのこの家」への通所を始めます。その後、



家計的にも収入を増やしたいと考えていた時に、就労継続支援A型事業所を紹介され、通所を開始します。ここではしいたけの袋詰め作業に従事、収入増にもなりこれぞ最適の仕事と生きがい、働く喜びを感じていた矢先、事業所が閉鎖することになりました。次の行先を探していたところ、淡路就労・生活支援センターからの紹介でイオンスタイルに入社。入社当初は、短時間でしたが、今では勤務時間も増え社会保険にも加入できることとなりました。仕事場は3人体制で、手話は分からないもの

「自分の働きぶりを見てもらい、ろう者への理解を広げたい」と福永さん

手話通訳者養成講座講義

「手話通訳の心構え」

平松弘子氏の講義を受講した方たちの感想です。

○「手話を知っているということと、手話通訳ができるということは違う」ということを学びもう一度真剣に向き合わないといけないと反省しました。 高木恵理

○手話通訳者としてろう者に必要な情報を伝える、気持ちを理解する、色々な知識が必要なことが理解できました。 広瀬千佳

○手話を通じて、聞こえない人の暮らしや取り巻く環境を学び、聞こえない人と聞こえる人の橋渡しができるように心がけていきたい。 池永治貴

○ろう者の身になり考えることの大切さ、通訳者としての重みなどを学び通訳に対しての考え方が変わりました。 藤本典子

○講義を聞いたり、サークル活動やテレビでの手話通訳を見る機会の多さに社会が変わりつつあると感じています。 山林亜美

○手話通訳を取り巻く法や制度についても学びました。ろう者の立場に立った手話通訳を目指したい。山家扶美枝

の、身振りなどでコミュニケーションが図れ、特に若い男性とは前の職場が一緒だったこともあり、気心の知れたいいパートナーのこと。  
お客さんから突然何か聞かれ戸惑ったこともあり、腕に「聞こえません」と腕章を作ってもらった  
り、マスクをつけての会話  
は口元が読み取れないた  
り、紙に書いてくださいと  
め、筆談をお願いしたりと、会  
社に聞こえないことへの配  
慮の発信もしています。他  
の部署の職員との関わりは  
少ないものの、朝や仕事終  
わりには手話で「おはよう」  
「ご苦労様」と表したり、昼  
食時にスマホで手話で会話  
しているのを見てもらい、  
聞こえない人の工夫を知つ  
てもらうなど、身近にろう  
者の生の姿を見てもらい、  
聞こえない人への理解が  
広がればいいなと思つて  
います。  
今では、仕事の内容はリ  
サイクル品の回収、分別の  
他に事務の手伝い、花の水  
やり等多岐にわたってい  
ます。福永さんは、今後も  
っと仕事の幅を広げ、元氣  
なうちはずっと働きたい  
と言います。



おのこのろの家では、農業班と室内班の大きく2つの班に分かれて作業をしています。  
室内班の作業内容は、塩班による塩作業と手作り班による主にミシンや手縫いの縫製作業です。

**利用者本人が  
自分の働きがい**

「今度は何を作ろうか」とひとつの作品が終わる頃に利用者さんとボランティアさんと職員で考えています。カバンやマスク

**中川原高齢者・障がい者地域  
ふれあいセンター**



☎ 656-0002  
兵庫県洲本市中川原町中川原 222-2  
TEL 0799-28-0990  
FAX 0799-28-0992



販売しているお店に行ったことがないので、なかなか良案がでないのかと思います。  
相談員さんからも、手芸店で見た作品も時々参考にしているようです、と聞いていたので緊急事態宣言が明けたら一緒に見に行こうと思います。  
次はどんな作品が出来上がるのか楽しみです。  
よろしくお願ひいたします。  
(支援員 興津典子)

**「洲本市ふるさと納税返礼品」購入者の感想**

見るからにおいしそうだったので、遅まきのお中元返しに友人に送りました。手ごろなお値段なので、友人から好評でしたらあちこちに送りたいと思います。勿論、自分用にも！いろいろ味が楽しめるし無添加というところが気に入っています。ただ、折角ふるさと納税なので、洲本の個性が分かるような工夫(包装等)があればいいな、と欲深く思っています。(8/18 広島県在住)

上品な花柄の包装紙で届きました。梱包も丁寧でとても好印象です。20個入りとなっていたので1袋に入っている量が少ないのを覚悟で申し込みましたが、どれも5枚(5個)以上入っていて、量的にも大満足でした。味は、全体的に甘さ控えめで、素朴な後引く美味しさでした。色々な種類(味はもちろん、生地も違い、色々な食感を楽しめます)もたくさんで、本当に美味しい。またお願いしたいと思いました。(8/26 神奈川県在住)

**デイサービス手芸講座開催**



8月30日(月)毎月、一回に行っている手芸講座。春から、洲本の八狸の壁飾りを作っています。毎回、みなさんのセンスで色んな表情の狸が、出来上がります。(デイサービス桜ヶ丘 竹内)

**ふるさと納税返礼品の  
購入者へのお礼**

全国各地から沢山の注文を頂き、中にはリピーターの方も何人かいらつしやいます。  
コロナ禍の中、イベントが中止になり販売機会が減っている中、注文を頂き、また、感想をいただくことにより利用者さんが仕事ができる喜びや励みにもつながっています。

これからも利用者さん職員一丸となって、皆さんのご要望に答えられるよう心を込めてお菓子作りに励みたいと思います。  
(おのこのろ屋支援員 船越 愛)



# 神戸長田ふくろうっこの杜

〒653-0836 兵庫県神戸市長田区神楽町5丁目3の14の1  
電話：078 798 7940  
FAX：078 798 7941

## ふくろうっこの夏休み ～放課後等ティサービス～

今年是我们たちふくろうっこのこと

って初めての夏休みです！クッキングや買い物、工作、ボウリング大会、聴こえない先輩との交流など楽しい企画を実施しました。ふくろうっこの達は料理が大好きです！夏休みではカレーライス、たこ焼き、焼きそば、お好み焼き、かき氷などをつくりました。グループに分かれ、野菜を切ったり、



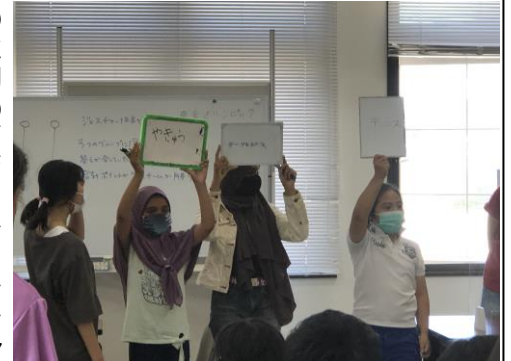
▲真剣な眼差しです！

いためたり、後片付けをしたりする等、チームワークを円滑に進める方法を学びました。「包丁を上手に使えるようになった！」「干切りにも挑戦したい！」「子どもたちの声がありました。今後子どもたちの自主性を大切にしながら企画を作っていきたいと思っています。」

## 新長田図書館館長さんの声かけて 多文化交流

杜から徒歩で3分のところにある新長田図書館の館長さんのご好意により私たちをつないでくれました。

8月6日にはふくろうっことNPO法人神戸定住外国人支援センター共催で異文化交流を企画し、ふたば国際プラザで開催しました。長田区は歴史的に外国にルーツをもつ人々が多く住む多様性ある地域です。そのような文化的背景をもつ子どもたちが支援センターで宿題をしたり、仲間づくりなどの取り組みを進めています。交流企画ではグループに分かれて非言語を通じたジェスチャーゲームや質問タイムを楽しみました。「自分の国以外の子どもたちと話す



▲ジェスチャーゲームの  
答え合わせをしています

のは初めてでドキドキしました！」と話すふくろうっこのこもいました。お別れの際、それぞれの子ども同士で「ありがとう」を笑顔で交わし、別れを惜しむ光景がみられました。館長さんからは「この出会いが友だち作りに、お互いの理解、エンパワーメントにつながってほしいですね」というコメントをいただきました！今後も交流企画を進めたいと思っています。

9月から学校が始まります。夏休みは子どもたちから多くのことを学びました。これからもひとりひとりの子どもに合わせた支援をしっかりと進めていきたいと思っています。

(放課後等ティサービス児童指導員・山本芙由美)

## 神戸施設建設募金

目標1億円を突破しました

7月31日 99,743,068円  
8月2日 99,859,897円  
8月3日 100,005,647円!!  
8月31日 100,210,378円

(プレート募金 382件)

ご支援ありがとうございます



▲お土産にベトナムのお菓子をいただきました♪